



# 新・みやぎ・シー・メール第39号

発行：令和3年 3月 1日 Miyagi sea mail 39

宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

## 親潮について

### 環境資源チーム

四方を海で囲まれた日本列島周辺には、黒潮と対馬暖流、親潮とリマン海流という、大きな暖流と寒流がそれぞれ2つ流れています。三陸沿岸海域は、黒潮、親潮、対馬暖流の支流である津軽暖流の影響を受ける日本沿岸有数の複雑な海域で、「混合域」と呼ばれています(図1)。



図1 日本近海の海流

親潮は水温が低く、栄養塩がたっぷりと含まれているのが特徴です。栄養が豊富なので植物プランクトンが繁殖し緑色に見えます。生物を育む海流なので「親」潮という名前がついているのです。そんな親潮が、暖かいけれど栄養分の少ない黒潮と出会うことで、暖水性の魚介類と冷水性の魚介類が両方見られる豊かな漁場が作り出されるのです。これらの海流の強弱によって海況は毎年変動し(図2)、宮城県の水産業は大きな影響を受けます。

例えば、親潮は4月ごろにもっとも南下しますが、ツノナシオキアミ(地方名いさだ)はその頃、

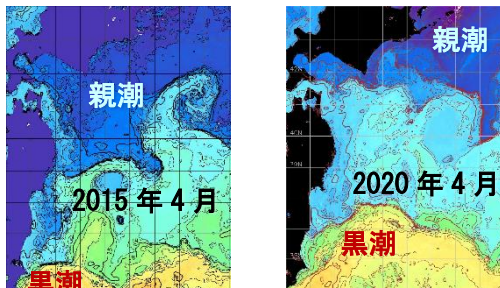


図2 親潮と黒潮の年変動の例(衛星NOAAより)

親潮の先端にあたる海域で漁獲されます。親潮の南下が弱い年には宮城県近海に漁場ができず、不漁となってしまいます。最近では2020年に大不漁となりました。また、サンマは親潮に沿うようにして日本近海に来遊するため、親潮の位置はサンマ漁業にとっても重要な情報になっています。

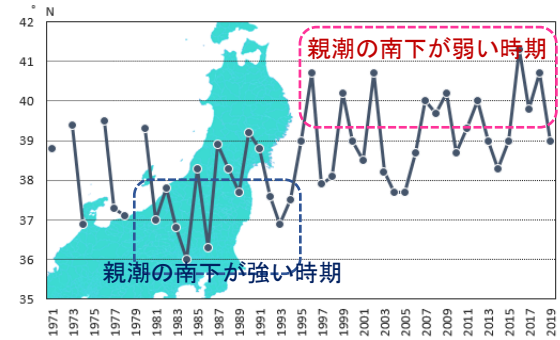


図3 親潮の春季の平均南端緯度

※緯度の目安のため日本地図を表示しています。

親潮の強さは数十年規模で変動することが知られています。1980年代は親潮の南下が非常に強く、宮城県ではタラやニシン、イカナゴなど冷たい水を好む魚介類の水揚げが増えました。また、通常は岩手県～宮城県沖にできるいさだ漁場が茨城県沖にできたり、1986年には神奈川県沖でゴマフアザラシが発見されるなど、北の生物が南の海域まで分布を広げる傾向が見られました。

一方で近年は親潮の南下が弱い傾向が続き、黒潮系の暖水が仙台湾口近くまで流れ込んでいます。このためタチウオなどの暖水性の魚が多く見られるようになる一方、沿岸に暖水が流れ込み、藻場が消失して、アワビなどの生育に悪影響を与えるようなことも起こっています。

今年の春の海況は、親潮の南下は去年よりも強いものの、岩手県沖の暖水の影響を受けて沿岸しにくくなっているほか、黒潮が去年から引き続き強勢で、宮城県沖合は高温になっています(図3)。

当センターでは継続的に海洋観測を行っており、ホームページや「みやぎ水産NAVI」で情報提供を行っていますので、ぜひ覗いてみてください。

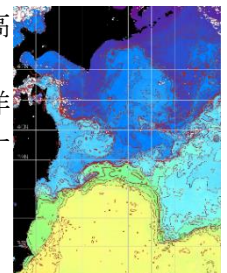


図4 2021年2月の海況

宮城県水産技術総合センター